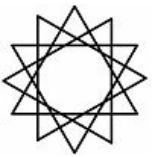
RIUA の書

千野 倫途　著
CHINO Rinto

RIUA の安定と豊穣と共に



倫理的な RIUA に、この本をささぐ
善良なる想造主体に、この本をささぐ

RIUA とは

RIUA(リューア)とは、宇宙や、その他空間を含む意味の語であり、廣義に空間を指しているニュアンスである。
RIUA の内容、それも地球ではあまり知られていない内容の本書での、公開は、著者の希望するところである。

この地球が存在する RIUA は、突然生じたわけではない。
想造を行う主体によって想造されたと考えるのが自然である。

想造の主体は、高度になることを考えられ、地球や太陽系が存在するこの RIUA を想造されたと言う。
高度にすることを考えられ、極を２つとされた。

地球は太陽系の３番目の惑星であるが、他の恒星系でも第３惑星が最も繁栄するパターンが観られるという。
地球は、想造主のお気に入りの惑星である様である。
火星は、太陽系の４番目の惑星であり、火星の存在は地球人と関わるケースも比較的多い様である。
海王星は太陽系で７番目の惑星であるが、高度であると同時にやや攻撃的な側面も観察される。
冥王星は太陽系の８番目の惑星であり、ここも想造主のお気に入りの惑星であるといえる。

RIUA(宇宙)が、善良なる想造主体を中心としてイメージされていることが、有効であり、重要であると考えられる。

RIUA と知的生命体

知的生命体と言われる存在は、実際には、 RIUA 外も含め数多く存在している。
殆ど、またはすべての知的生命体は、多くの身体的・心理的特徴が共通している。
この RIUA で、殆どの高等生物は雌雄にわかれている。
指の数は 5 本でない場合、4 本のケース等もみられるが、思考や感情も含め、共通するところは多いようである。

地球に来訪する知的生命体は、多くがは虫類タイプであり、他に、は虫類とほ乳類の混血タイプや、ほ乳類タイプもみられる。
地球のヨーロッパ系人種は、多くの場合、は虫類タイプのゲノム配列を一部有しているととらえるのが妥当である。

地球の人類、そしてその他の生命は、想造をなし得る主体によって想造されたと考えられる。
多くの生命体の現状は、進化論で説明するのは困難であるはずである。
太陽系や地球、そしてそれらが存在する RIUA も、想造主体によって想造されたという想定こそが、自然なものである。

進化や進歩は、緩やかであることがのぞましいという。
良い方向やすぐれた方向に向かってのものと考えられることに関しても、徐々に変化していくことが良いといえる。

相当の水準に達すると、自分達のみの繁栄より、 RIUA 全体を豊かにすることを重視することが安定に資する。

広域にわたる繁栄に対して、一極のみの繁栄は、不安定なものとなりやすいと考えられる。

高度の内容は、善用される可能性と同時に、よろしくない用い方のなされる可能性を持つことも注意を要する点である。

陽と陰と合

RIUA(宇宙)では、陽性(プラスの性質)と陰性(マイナスの性質)の２つの性質、または陽性と陰性と中性の３つの性質から成ると考えることができる。

地球の存在するRIUA(宇宙)では、陽性と陰性の２つの性質が重視される様である。

陽	プラス	明	熱	剛	酸性	朝昼	春夏	奇数	雄
陰	マイナス	暗	冷	柔	アルカリ性	夕夜	秋冬	偶数	雌

陽と陰の性質は、主に上記のようにわりあてられる。

血液型に関して、B型は陽性、A型は陰性と考えられる。

RIUAでは陽の性質のみで成り立っているわけでも、陰の性質のみで成り立っているわけでもない。
陽の性質と陰の性質、そして時に中性の性質も、存在することがあり得る。

陽なる性質が発生すると、それほど時間を置かず、それと対照をなす陰の性質が発生する現象が見られる様である。
強い陽の性質が発生すると、強い陰の性質が発生することも考えられる。

そしてついには、陽の性質と陰の性質が合することで、１つになるということが、歴史上多くくりかえされてきた模様である。
(もっとも、陽と陰の合が起きないケースもあり得る。)

誤解に関して

強い憤りの感情とは、虚偽の情報や誤解によって生じやすいものである。
強い憤りを覚えた際には、関連した情報を疑ったほうが良い場合が多いと言える。
実際の情報を認識すると、それらのよろしくない感情が解けてしまうことが起こり得る。

現実は、思考が実現してきたものであるという側面を持っていることが多い。

思考とは頭の中の考えだけでなく、その人の姓名やノートの内容、持っている書籍等も思考に影響を与えると考えることができる。

ノート類等の文字データやコンピュータ類のデータも、良いものにすることが望まれる。
近未来・未来の現実は、文字による誘導が可能であると考えられる。

コンピュータ類のデータで、良いデータにすることはもち論だが、Web ブラウザのキャッシュファイルを良いものにすることも重要である。
(Web ブラウザには、閲覧した Web ページのデータ類が残り続ける事が多い。それらは通常、Web ページ閲覧の「履歴」を表示し、ページのデータを削除することで、そのページのキャッシュファイルを削除することが可能である。)

その他に、財布の紙幣の上下や表裏や額の順を揃えることや、トイレの蓋を必ず閉じることも、思考に影響を与えると言える。

また「インプットとアウトプットは均衡しようとする」ことも重要な内容である。
インプット(入力)とアウトプット(出力)は思考に関連した重要な要素だが、それらを整えること、良質にしようとすることが重要である。
Web の BBS 等への書き込んだキーワードも、自分に返ってきかねない、あるいは自分の特徴として実現しかねない、と考えられなくはない。

黄金律で言われるように、与えたもの(と同種のもの)が返されてくることも多いが、すぐにでない場合も多く、また全く同一のものが返されてくるとも限らない。
しかし中長期では、それらは均衡しようとする作用が働くと考えられる。

現在、ある程度の RIUA 外を含めても、テクノロジーに関して地球の水準に達している存在は殆どないというのが実際に近いと言える。
また、ある程度の RIUA 外を含めても、貨幣経済が十分に根付いているエリアは多くない可能性も考えられる。
貨幣経済の発達は、合理性や計数能力、その他の能力の伸長に寄与し、また、私有財産制や個人主義的傾向の擴大も想定される。
地球の文明が、現在の水準にまで達し得たのは、貨幣経済の発達と擴大を、重要な要因としてあげることができる。

地球の古代の文明が大抵、大河の流域で形成され、文字と暦学を持ったのは、食料生産を大規模に行うのにそれらが不可欠だった為でもある。
多量の食料の生産により、余剰人口を養うことが、文明の初期に見られる特徴である。
まとまった量の食料生産が、文明には必要不可欠である。
作物の生産には文字による記録や暦学の知識が重要であり、それらの内容のなかには RIUA の上位の存在によってもたらされたものも存在する。
ピラミッド類の上から民衆の指揮にあたったのは、地球外にルーツを持つ存在であったケースも想定される。

地球の古代文明では、地球外の上位種が人種を造りだし、神として君臨しながら古代人に知識をもたらしていた様である。

中東のメソポタミヤ文明初期のシュメール文明は、 地球外の存在によって築かれたものだった。
地球外の存在によって造られた「シャリル」という名の男性がシュメール文明の男系の祖であると言える。

明治・大正期に、日本国は大きい進歩を遂げた。
いくつかの分野では、現在の水準に見劣りしないレベルに、大正期後半に達していたという。
(大正期は実際には長期に及んでいたが、後に短期間であったかの様に改変がなされている。)

「(明治維新から)50 年で我々の文明(あるいは RIUA の全文明)を超えた日本国だからだ。」と言っていたのはある存在である。

1940 年代後半以降、日本国は、テクノロジー等の水準を、再び大正期の前半位に戻されたと言う。

急速の進歩は、べつの何らかの可能性を伴うことも考えられる。
時には、テクノロジーの進歩を止めてしまうことも有効であると考えられる。

明治・大正期に日本国は、経済や産業とともに軍事を重視していた。
大正期後半には日本国は、欧米列強に追いつくどころか、むしろ欧米諸国は日本国に対し、遜っていたと言う。

令和期以降には、経済をさらに重視した政策を進めることが重要であると考えられる。

DNA 関連のテクノロジー

DNA 関連のテクノロジーは、基本的なものは数千年以上前から存在している。

DNA の本体部分は、基本的に A,G,C,T の等の物質から成るデータとして理解することができる。

DNA 組み替え等による種の想造が、地球を含め、廣範囲に為され続けてきたと考えられる。

染色体に関し、男は YX、女は XX の染色体を持つとされている。
古代人の男性は YY の染色体のケースがみられ、現代人でも出身等によっては YY の染色体の男性が存在している。
古代人の男性を含む YY の染色体の男性は、男性らしさがより強く現れやすいと言える。

80 年以上前の日本国でも「ジュラミック液」等を用いることで DNA データによってルーツ等を確認することができた模様である。

「重力と磁力は同一である」
「1 系と 6 系は重力(磁力)の作用を受ける」

RIUA では当然のように考えられている内容だが、地球では秘匿され、また偽装されている内容が存在する。

磁力の影響を受けやすいのは、鉄(26)をはじめ、原子番号が 6 系の物質が多いが、実際にはナトリウム(11)やスカンジウム(21)をはじめ、1 系の物質も磁力を有するとされている。

1 系でも 6 系でもない元素は重力の影響を受けないことがあり得る。
単体のアルミニウムは重力(磁力)の影響を受けず、空中に浮遊させやすく、UFO 等はボディがアルミニウム系で造られていることが多い様である。

アルミニウムは、RIUA で重視されている金属である模様である。

地球での多くの問題の真因等

地球で、ユダヤやコリアの勢力によってよろしくない行為が多くなされている、かのようにみえることがあるかもしれない。

実際のところは、ユダヤやコリアの勢力によるとみなされている行為の多くが、地球外や、あるいはこの RIUA の外の存在の意思または関与したものであると言える。

それら RIUA 外に由来する存在は「心の歪みが生み出した化生」というべき性質を持っている。
それら化生は、何らかの方法で解消してしまうことが可能である様である。

化生は、電圧の出力が下げられるときえてしまう、という情報も存在する。

この RIUA では、ある存在が生じると、それと対照をなす存在が生じることがあり得る。

地球のみの繁栄を考えるより、他の RIUA も含めた繁栄を考えることも重要であると考えられる。

多くの健康でない症状等が、電波の影響を排し、食料摂取を健全にし、抗生物質やその他基本的な薬剤を用いると治癒してしまうと言う。

相当なものであるかのようにとらえれているウィルスも、基本的な抗生物質で治癒してしまう、という内容も聞かれる。

ある国では、ペニシリン等の抗生物質が、殆どのやまいや症状に対して効果があると言われているという。

基本的な抗生物質とその他基本的な薬剤が多くのケースで有効だが、部分的に有効な、あるいは表面的な症状の改善のみに有効な「新しい薬剤」が登場してきたとも言う。

クエン酸入りの風呂

クエン酸を１掴みか２掴み入れた湯に半身浴をすることで、健康効果を得られることが多い。

肌がすべすべになるだけでなく、特に女性がその湯で中までよく洗うと、性病がすべてきえて、食事が美味しくなる等の効果が得られる、という情報も聞かれる。

クエン酸は、薬局やドラッグストアで購入でき、容易に実行できる内容である。

2400分率の時間系

現在、1日=24時間、1時間=60分、1分=60秒の時間系が用いられている。
そして、1日=1440分となっている。

1日=24時間、1時間=100分、1分=100秒、の時間系を提案するものである。
この時間系だと、1日=2400分となる。
この新時間系は合理的であり、用いてみると、格段に快適になるものである。
(新時間系は、コンピュータ・プログラムで容易に表示できる。)

さらに、1日=100,000秒とした、10万分率の單位系も使用されることが望ましい。
周波数や速度等の、時間の基本單位で用いられることが想定される。

時間を表示する際、午前と午後それぞれに12時間が存在するより、24時間の時刻表示がなされることが望ましいと考えられる。
24時間制に慣れるまで多少時間がかかるかもしれないが、慣れるとより調和であると考えられる為である。

1日(地球の自転周期)は24時間であり、12時間の自転が1日に2回あるわけでない。
アナログ時計は、デジタル時計に置き換えられていくことが期待される。

RIUA での存在

RIUA では、一定以上よろしくない者は、存在を維持できないことがある様である。
重犯罪行為を多重になしている者は、ある時、存在が解消してしまうこともある模様である。
(重犯罪者が突然いなくなってしまう、等の現象も実際にみられるという。)

また、RIUA で生のある存在が、心の歪みから「化生」を生みだしてしまうこともあり得る。
一見よろしくない存在にみえることもある「化生」は、何らかの影響が与えられると、これも存在が解消してしまうことがある様である。

化生を発生させる要因として、魚食や肉食も考えられる模様である。

穀物と野菜・豆類・ナッツ類等を主要な内容とする植物食が、平安と安定にとって有効である。

弓術とＣ氏

明治期に来日したＣ氏は、日本国の弓の達人に教えを受けることとなった。
「日本国のすべてを習得する。おそらく伝統芸能のなかに何かがあるはずだ。」

Ｃ氏は、弓術を習得する為に、技術での向上をめざそうとした。
達人は「無心でやるのですよ」と言っていたが、 Ｃ氏は「無心」というものに懐疑的で、スキルの向上に余念がない。
途中、いくらかの経過を経て、 Ｃ氏は100発中数射外す程にまで上達したが、達人のように100発100中にまでいたらず、必ず数射はずしていた。

ある時、 Ｃ氏は達人に「(100発100中にいたる方法を)教えていない」とつめよる。
Ｃ氏はスキルの上達に寄与した自らの記録方法を達人に示した。
夜の闇の中、達人はＣ氏に、的と自らの射る位置の中間の位置に線香１本を立てるよう頼んでいる。
そしてＣ氏が射る位置付近に戻ると、闇の中の的に向け矢を射ると、矢が的に中ったことが音で知られた。
次いで２射目、 ３射目を終えた後、 Ｃ氏に的を確認してくるように言っている。
的の中心に第一射の矢がささっていたが、それをひきさいて第２射の矢が、さらにそれをひきさいて第３射の矢がささっていたものであった。

西暦 800 年頃　平安京　(京都)
西暦 1200 年頃　鎌倉幕府(鎌倉)
西暦 1600 年頃　絵土幕府(絵土)
西暦 1868 年頃　明治政府(東京)
西暦 2000 年頃　???
西暦 2023 年頃　令和現在(初版時)

暦学は有効であり、特に四柱数位術や四柱推命学が重要である。
百年以上の單位でも、 100 年や 400 年の正確なサイクルが存在している。

(一般には情報が加工されているが、実際には 400 年サイクル等で日本の中心地の重要な移転がなされてきている。)

東洋、西洋、他のエリアでも、400 年、100 年、約 133 年等のサイクルが機能していると言える。

(西欧その他でも、歴史的な出来事の年が、数年以上加工されていることも想定される。)

西暦 2000 年頃には、日本や欧米で首都移転等はみられなかったが、重要な変化が起こり得たと考えられる。
そして、西暦 2000 年頃からすでに、新しい 800 年サイクル、または 1600 年サイクルに移っていると想定される。
現在、約 800 年の新文明の初期段階にある可能性も考えられる。

古来から「妙薬」と呼ばれるものを用いて、読心の他、過去や現在の多くの情報を把握することが可能な存在が、歴史に影響を与えてきた。

妙薬の成分は、特定の場所の地下水等にも含まれる重金属で、チャイナでは「韓」の地の関連で、読心や情報把握の可能な存在が何らかの影響を与えてきた。

妙薬を用いて情報を把握し、転生を繰り返してきた者も存在するが、多くの存在は、転生しても類似のパターンを繰り返すことが多い様である。

肉体とはべつに、「たましい」「霊」等の名で呼ばれる永続する主体が存在し、多くの生命が転生を繰り返しているといえる。

ヨハネとイエス

ローマ帝国属領で、ヨハネは「我我は神の徒だ」と言い、好ましい食物と食物禁忌を説いていた。

イエスは、何らかの疑問の言葉をローマの神官や官吏に対して発することもあり、少年期から監視を受けていたようである。

ローマ帝国では、妙薬を用いた監視網が敷かれていて、帝国にとってネガティブな向きのある存在は常時の監視を受けかねなかった。

ある時、イエスは長期の断食を決心し、荒野で 27 日間の断食を達成する。
断食の期間も、かわらず遠巻きの監視を受けていたが、監視者は人種的にもイエスにやや近く、幾分好意的でもある小柄の男性等であった。

27 日の断食の後、活動をスタートし、自らの教えを擴大し、赦しを授けるイエス。
教団は擴大していき、イエスは弟子たちに対し、子作りを奨励する、等の内容も伝え、弟子たちはイエスにない内容も持っていて、実行していく。

しかし、ついには、ローマ帝国の官吏の手にかかり、はりつけの刑に処せられるにいたる。
(ユダとは、イエスに対し良い存在であり、実際は寝返ることもなかったが、何故か汚名をきせられたかもしれない。)

イエスは刑の際、近くに来ていた見知った女を言い含めて見張りを買収させ、 3 日間その場をはなれることが可能になった。
そしてイエスはその女とともに過ごし、葡萄酒とパンを摂る際、それらを「自らの血」「自らの肉」に例えて表現した。
「これで私は、少しはこの女のなかに残る」

イエスは刑の場所に戻り、その生を終えるが、そのたましいは天空に昇り、天空から高位の存在とともにローマ帝国内の実状を把握していく。
そしてその属領や他の帝国内のエリアでよろしくない行為等がはびこっていることを認識し、何らかの対処が天空から為された様である。

ローマ帝国とヘブライ人

ローマ帝国中枢は、いつ頃からか属領のヘブライ人を警戒し、民族名を「ユダヤ(ユダの下、の意)」とすることを強いたものである。

また言語に関しても、ヘブライ語を用いることを禁止し、ローマ語を用いることを強制している。

ユダヤ人はローマ帝国内において、官吏や金融系等で能力を発揮し、ローマ帝国の上層の多くをユダヤ系とシリア系が占めるようになる。

そしてシリア系に近い小柄の者が、屈強な人種を傭兵として雇い入れ、ローマ帝国内部の情報を伝え、ローマ帝国はその歴史を終えるにいたっている。

Y 人種の祖

Y 人種は、淫靡さの雰囲気を多少伴い、歴史的にネガティブに取られることもあった人種であった。

Y 人種の地球での祖である女は、元は地球外の存在(女)により、多少よろしくない時期につくられたもので、知的な存在のゲノム配列も有するようつくられている。

ある年の 6 月、Y 人種の祖である RIUA の存在の女は、地球の質実な人種である R 人種と通婚している。
その存在は、R 人種の男とまぐわい、交歓とともにその女は姿を消している。

この RIUA では、因縁が解消されると存在しなくなることがある様である。

この世界は、シマが多く存在する世界である。

シマとは、自らの言行等によってそれぞれに制限と各種特徴を与えられた領域である。
(シマは島流しの「島」に由来し、離島等でなくても制限等を課されている。)

罪のすくない者程、制限が少なく、自由度が高いことが多いと言える。

生まれて間もない頃は、多くの者が、制限のあまりない領域にいることが多いと言える。

多くの場合、自らの行いによって、制約を与えられている。
また別の制限や特徴を有するシマに移ることも十分にあり得る。

この RIUA は、「与えたものが、与えられることになる」ことが多い世界であると言える。
そして、自らの言動によって、他のシマに移されることもあり得る世界である。

多くの人の人間関係のモデルや社会性のモデルが、家庭内に先に存在することが多い様である。
家庭内の安定こそが、基本的な要素として重要であると考えられる。

名と名付けを、重要な要素としてあげることができる。

良い名をつかうことは、あらゆる局面で最重要の要素であり得る。

大物の人物の名前が大物らしく聞こえるのは、「本人が大物だから」というより「大物の名を使っていたから大物になったのだ」という側面をみのがすことができない。

人の姓名をはじめ、その他あらゆるものの名前が、適正なものとなっていることが重要であるといえる。

四柱数位術や姓名学を研究・習得することも重要であるといえる。
(四柱数位術や姓名学を学習・習得する際、書籍とインターネットでの学習が望ましいことが多い様である。)
(よろしくないタイプの講師の存在も聞かれる。)

現在の製造業と小売業等

現在、様々の物の製造原價は相当に低下している模様である。

かつて、小売業の仕入原價は売り値の 40%から 50%と言われていたこともあったが、現在ではさらに大きく下げていて、食品等では 21%以下の物も多く見られると言う。

多くが企業努力や研究開発関連の努力によってであると考えられるが、ここ数十年で、製造原價が大幅に低下している様である。
そして、製造業や小売業等が相当の利益を上げていることを含め、あまり知られていない模様である。

小売業や製造業の企業は、表の情報でしられている以上に、莫大な利益をあげているケースが多いと考えられる。

エタノールの様な基本的なアルコール燃料は、二酸化炭素(CO2)と水素(H)から安價に生産が可能である模様である。
エタノール燃料(C,H,O の化合物)を、大気中の二酸化炭素と水素(水素は水から得ることも可能)から生産する際には、酸素(O2)が発生し、酸素濃度が高くなりすぎないよう注意を要する。
(窓を開けて換気をしたほうが良いケースが想定される。)

電力エネルギーの場合、火炎(プラズマでもある)に金属を当てることで多量の電力を得られる模様である。
旧来の火力発電の、熱で蒸気を発生させタービンを回転させて電力を得るものより、火炎そのものから電力を得るほうが高効率である。
また、熱をエネルギーに変換できる「熱媒」もすでに存在している。

基本給付制度(一般に言うベーシックインカム)の様な、毎月一定金額(数万円等)を全国民に給付する制度はすでに実現可能であると言う。
エネルギーや食料をはじめ、基本的な生活物資の殆どは、現在では製造原價が相当に低下している。
(現金での給付より、食料・エネルギーの購入が可能な金券の方が実現がさらに容易であるかもしれない。)

基本給付制度(約３万９千円/月)の創設をここに提唱するものである。

RIUA での食料生産

RIUA(地球外)で食料生産を擴大することが重要であると考えられる。

一定以上の規模の食料生産により人口を養うことが文明には必要不可欠だが、食料生産は、その他の多数の有益な要素を含んでいる。

RIUA での食料生産の擴大が、長期で RIUA の安定と豊穣に資すると考えられる。

RIUA で生産される食料に関して、特にダイコン類が望ましいと考えられる。
ついでニンジンやその他野菜、麦類等が挙げられる。

RIUA で食料生産の擴大がなされることが、現在の RIUA で、特に有益である様である。

＋曽賀の十箇條＋

一　情報の把握につとめ、真因の認識、根本の認識、メカニズムの認識を心掛けること
　　表面的な現象に対してでなく、ルートの認識とその解決を考えること

二　柔なる行動を、剛なる行動に対し、より多く用いること
　　柔なる対応の方が有効であることが多い　生命を尊重すること

三　基本を重視すること
　　高度にやろうとするより、基本を重視すること　テクノロジーは善用とともにあく用が為され得る

四　すでに持っているもの、コストの殆ど、あるいはまったくかからないものでの解決を考えること
　　殆どの場合、それらで解決が可能である　またモノやリソースをむだにしないこと

五　心理や思考や行動を、誠真なるものにすること
　　生ある存在が、逸した心理や思考によって、化生というべきものを生じさせてしまうことがあり得る

六　良い名を用い、また良い言葉を多く用いること
　　本人にとって良い名を用い、日常に良い言葉を多く用いること

七　良いシナリオを想定すること
　　良い想定を、良くない想定以上に多く考え、記述すること

八　RIUA からの作用や影響を認識し、RIUA を廣範囲に想定すること
　　地球だけの、あるいは一部エリアだけの想定にとどまらず、RIUA の心理的作用を想定すること

九　僅かずつの変化、または進化を心がけること
　　変化や進化を僅かずつにすることで、安定を得やすくすること

十　想造主を中心とした RIUA をイメージすること
　　また、大神さま中心の宇宙外をイメージすること

RIUA の書
三倉　稀途(みくら　りんと) 著

令和５年　４月　第　１版
令和６年　９月　第 24 版

著者情報
千野　倫途　(別名：池内　倫途)
兵庫県在住。暦学理論の研究等に長年携わる。
mail: richcode333@gmail.com